

中村書記等を奪はれ極めて困難な立場におかれてゐる。しかも全国的に最も強固な地盤をもつてゐる兵庫縣聯が大澤慶をやらせ組織を殆んど破壊される等々、悪条件が次へり、次へり起り、最近では表面的には大した活動を續け得ない事情にかかれてゐる。

このうした全農農民組合の分裂、内訌についてはこゝに可及く言はずまでもなく、政党問題である。

出来、政党問題は、全農がガンとも見らるべきものであつて、全農過去数年は全く此の問題の故に内部抗争と分裂をくり返して今日に至つた。全農中央部は政党問題に關して極めて消極的な態度を以つて政治的對立に基く内部紛争、確執、防止に努め、昨年の大會以後益々明瞭に意識的に此の方策を遂行

して来たものがあるが、これは問題を解決する方針に非ずして、たゞ單に内部對立を表面化を延引するに過ぎざるもので、此の間、新に醸成され、深化される組織の政治的不統一、情勢は、大會接近に於いて俄かに緊張し、大會に對して常に一般の視聽が向けられるのが例年のことである。

即ち全農の持つ政党問題は、具体的には大衆党支持非支持の問題を意味し、「昨年、全農本部が合法政党反對派たる全農會議派を殆んど許すといふなく、除名清算して一舉合法黨支持の下に大衆党支持非支持をなしたる」が、當時急激に起つて来たツアツシヨウの潮流に侵蝕されて居た大衆党が、殊に幹部が右翼的傾向が甚だしく濃厚になり、一部幹部が如何に國社党にまで轉向するといふ有様であつたので、全農各地に大衆党反對の態度に出づるものが多くなつた。